

事業名称	「地域見守りたい！」地・学連携による空き家活用プロジェクト
事業主体名	一般財団法人島根県建築住宅センター
連携先	鳶巣地区自治協会、川北町内会、(一社)まちづくり鳶巣 鳶巣地区社会福祉協議会、島根県立大学出雲キャンパス (一社)全国古民家再生協会島根県第一支部 島根大学総合理工学部建築デザイン学科、出雲市、島根県
対象地域	島根県出雲市
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな空き家活用のモデルとなる、地域と大学が連携したシェアハウスを整備する。 ・空き家の継続的な利活用のため、空き家対策を担う団体を設立する。 ・令和2年度から進めている、計画から改修、管理運営までの課題についての検討を継続して実践する。 ・改修資金の確保、所有者との調整を地域（民間）の力でモデル的に実施 ・令和4年4月からシェアハウス入居開始予定。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を「空き家供給主体」、大学を「空き家利用主体」と捉え、空き家の利活用に地域住民や学生を巻き込むことで、地・学の新たな連携を創生する ・空き家活用を地域主体で実施することにより、かつて農村地域で住民生活を支えていた住民同士のつながりである「結」を新たに再生する ・本プロジェクトを地方ならではの地域維持活動の事例として、人口（若年層）減少に悩む市町村や集落における空き家対策の参考とする
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家活用までに必要となる取組に関するノウハウの蓄積 ・シェアハウスの管理運営等を担う（一社）まちづくり鳶巣の設立 ・シェアハウス「とびっこハウス」の完成 ・地域と大学、官民等の幅広い連携関係の構築 ⇒これまでの取組をまとめた活動報告書の作成
成果の公表方法	（一財）島根県建築住宅センターのホームページで公表 （PDF版はダウンロード可） https://www.shimane-bhc.or.jp/594
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「しまね版空き家対策」として、県内各地への展開。 ・2件目以降の空き家活用事業へ向けての継続的な検討

1. 事業の背景と目的

本プロジェクトは空き家をシェアハウスとして活用することを通じ、地域や大学が抱える課題の解決を図ろうとするものです。シェアハウス整備後は、入居した学生と地域住民がお互いの存在を感じながら生活し、お互いの見守りを行うなど、地・学の新たな連携による継続的な地域維持活動が行われるよう、計画段階から地域住民と学生の連携イベントを企画しました。さらに、空き家の改修を地域主体で実施することにより、かつて農村で住民の生活を支えた住民同士のつながり『結』を再生し、継続的な空き家活用システム『しまね版空き家利活用策』を構築することを目的とします。

① 出雲市鳶巣地区〔地〕

鳶巣地区は出雲市の北部、出雲大社から約8キロにある農村地帯で、自治会活動が活発な地域として有名です。鳶巣地区では年々空き家が増え、令和元年末時点において約50軒（鳶巣地区自治協会調べ。）の空き家が存在しています。空き家の増加は健全な地域環境を阻害する要因となり、地域活力にも悪い影響を及ぼす可能性があることから、空き家対策は鳶巣地区の重要な課題となっています。

② 県立大学出雲キャンパス〔学〕

鳶巣地区にある島根県立大学出雲キャンパス（以下「県大」という。）は看護・栄養系学部からなる4年制大学です。県大では、県西部や隠岐地域など自宅からの通学が困難な地域からの入学者を積極的に受入れています。その入学者の多くは、費用負担の少ない大学寮での生活を希望していますが、定員上の制限から入寮できず、一般的な民間賃貸住宅等で暮らしており、低家賃の住まいの確保が課題となっています。

③ 空き家の活用と地域活性化〔連携〕

本プロジェクトは、鳶巣地区内の空き家を「空き家活用のモデル」として使用し、県大生のための低額家賃の住まいとして、シェアハウスを整備するものです。この整備における検討過程と整備後のシェアハウスでの暮らしを通じ、大学と地域住民との協働による地域活性化を図ります。

④ モデル活用する空き家（A邸）

本プロジェクトで活用する空き家は、約6年前（平成28年頃）から空き家状態となっていました。所有者は県外に居住され、今後も使用する意志はないとのことで、日常的な管理は、近隣に住む親戚の方が行っておられました。

〔所在地〕 出雲市西林木町地内

〔構造等〕 木造2階建

〔延べ面積〕 324㎡

写真1 モデル空き家(外観)



写真2 モデル空き家(食事室)

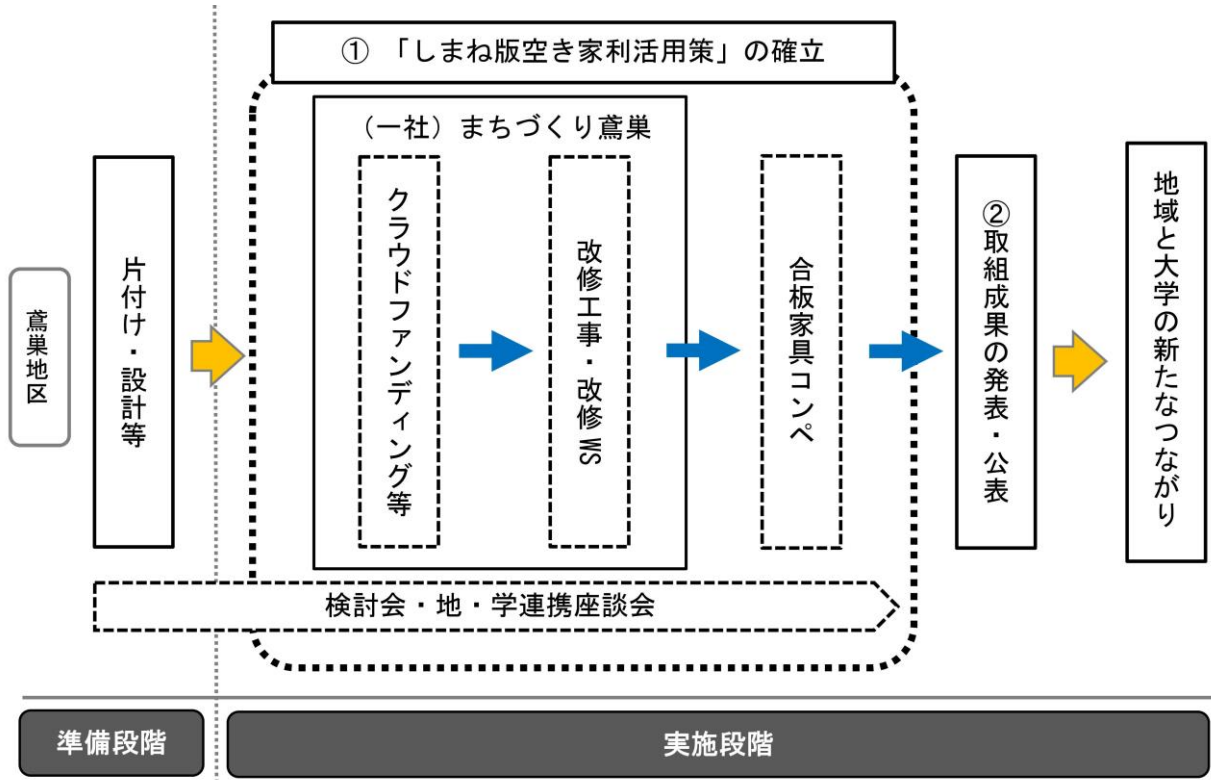


2. 事業の内容

(1) 事業の概要と手順

本プロジェクトでは、新たな空き家活用のモデルとなる地域と大学が連携したシェアハウスの整備を2カ年計画で実施しています。前年度は「準備段階」として、空き家の片付けや設計、各種調査を実施しました。本年度は「実施段階」として、シェアハウスの管理運営を担っていく法人の設立、改修資金の調達、改修工事などを地・学連携の取組を交えながら実施します。また、令和4年4月からの運用開始のため、各種契約内容の整理、入居者の募集を併せて実施します。

【取組フロー図】



【役割分割表】

取組内容	具体的な内容 (小項目)	担当者 (組織名)	業務内容
「しまね版空き家利活用策」の確立	検討会の実施	(一財) 島根県建築住宅センター	事業の管理・調整を行うため、担当者による検討会と準備会を開催する。
	空き家の管理・運営を担う団体の設立	(一社) まちづくり蔦巣	空き家活用のための改修やその後の管理・運営を行う法人を設立する。
		島根県立大学出雲キャンパス	入居者確保のため、広報活動を行う (斡旋)。
	クラウドファンディング等による資金確保	(一社) まちづくり蔦巣	クラウドファンディングを活用した資金調達を実践する。また、県創業支援補助金等の活用を検討する。
		蔦巣地区自治協会	クラウドファンディングの返礼品の確保
	改修工事の実践		(一社) 全国古民家再生協会
(一財) 島根県建築住宅センター			地域住民と学生による改修ワークショップを企画する。
島根大学建築デザイン学科			合板(家具)WS の運営

		(一社)全国古民家再生協会	合板(内装)、左官、塗装 WS の運営
	合板でつくる家具デザインコンペの実施	(一財)島根県建築住宅センター	入居学生等が使用する家具デザインをコンペで募集する。
	地・学連携座談会	鳶巣地区自治協会(川町内会)	地・学連携を進めるためのイベントを企画する。
		出雲市社会福祉協議会	イベントの準備、運営
		(一社)まちづくり鳶巣	イベントの準備、運営
取組成果の発表・公表	事業報告会の開催	(一財)島根県建築住宅センター	継続的に空き家活用を進めるため、住民等への報告会を企画する。また、活動報告書を作成する。
		島根県建築住宅課	報告会の運営、報告書内容検討を行う。

【進捗状況表】

取組ステップ	取組内容	具体的な取組(小項目)	令和3年度								
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施段階	①「島根版空き家利活用策」の確立	検討会の実施	—————								
		空き家の管理・運営を担う団体の設立	○								
		クラウドファンディング等による資金確保					—————				
		改修工事の実践					—————				
		合板でつくる家具デザインコンペの実施				—————					
		地・学連携座談会						○			
	②取組成果の発表・公表	事業報告会の開催								○	

(2) 事業の取組詳細

①「島根県版空き家利活用策」の確立

1) 検討会の実施

このプロジェクトが目指すものは、空き家の活用と空き家の活用を通じた空き家の提供者である「地域」と空き家の利用者である「県大」とのつながりの創出です。その実現に向け、昨年度に続いて実施する取組の検討にあたり、地域住民、学生、大学関係者を交えた準備会及び検討会に行い意見交換等、連携を深めてきました。

- ・準備会：取組の事前検討や準備等を行う会議(計6回実施)
- ・検討会：取組実施の総合調整や意思決定する会議(計3回実施)

写真3 検討会の状況①



写真4 検討会の状況②



2) 空き家の管理・運営を担う団体の設立

昨年度からの取組を踏まえ、シェアハウス改修のための改修資金の調達、改修工事、整備後の管理・運営を行うことを目的に、鳶巣地区住民17名の出資により「一般社団法人まちづくり鳶巣」が設立されました。本法人はシェアハウスの管理運営にとどまらず、様々な地域を元気にする活動を行っていきます。

[設立総会] 令和3年8月8日(日)

設立に合わせ、本プロジェクト連携団体に参入

写真5 設立総会の状況①



写真6 設立総会の状況②



3) クラウドファンディング等による資金確保

本プロジェクトでは、今後の空き家利活用のケーススタディとするため、空き家改修に要する費用の確保及び活動の情報発信を目的として、クラウドファンディングを実施しました。地域住民と学生、プロジェクト連携団体とのつながりにより、目標金額の達成とクラウドファンディングによる県を越えた活動の情報発信をすることができました。

また、地方自治体等が実施している補助事業から、本プロジェクトの空き家改修に活用できるものを精査し、実際に活用しました。

[実施計画] 目標額：100万円

期間：11月29日から1月26日23:00まで

方式：All or Nothing型

図1 クラウドファンディングプロジェクトページ

看護職、管理栄養士を目指す学生のためにシェアハウスを作りたい！

まちづくり鷹巣



支援総額 **1,254,000円** 目標金額 1,000,000円

支援者 89人 募集終了日 2022年1月26日

フォロー中

プロジェクトは成立しました！

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

4) 改修工事の実践

令和2年度に行った設計ワークショップでの検討結果（空き家改修基本計画及び基本設計）を取り入れた実施設計を行い、多様な意見を反映させた改修設計を行いました。今年度は資金計画の検討に合わせて、改修内容を見直し、シェアハウスとして改修する部分と改修しない部分を明確に分けることで無理のない改修計画としました。非改修部分は、地域住民と入居者（学生）との交流の場として活用を図ることとし、この部分を「地域交流サロン」と名付けて地域開放する計画です。

図2 シェアハウス改修図面（1階）

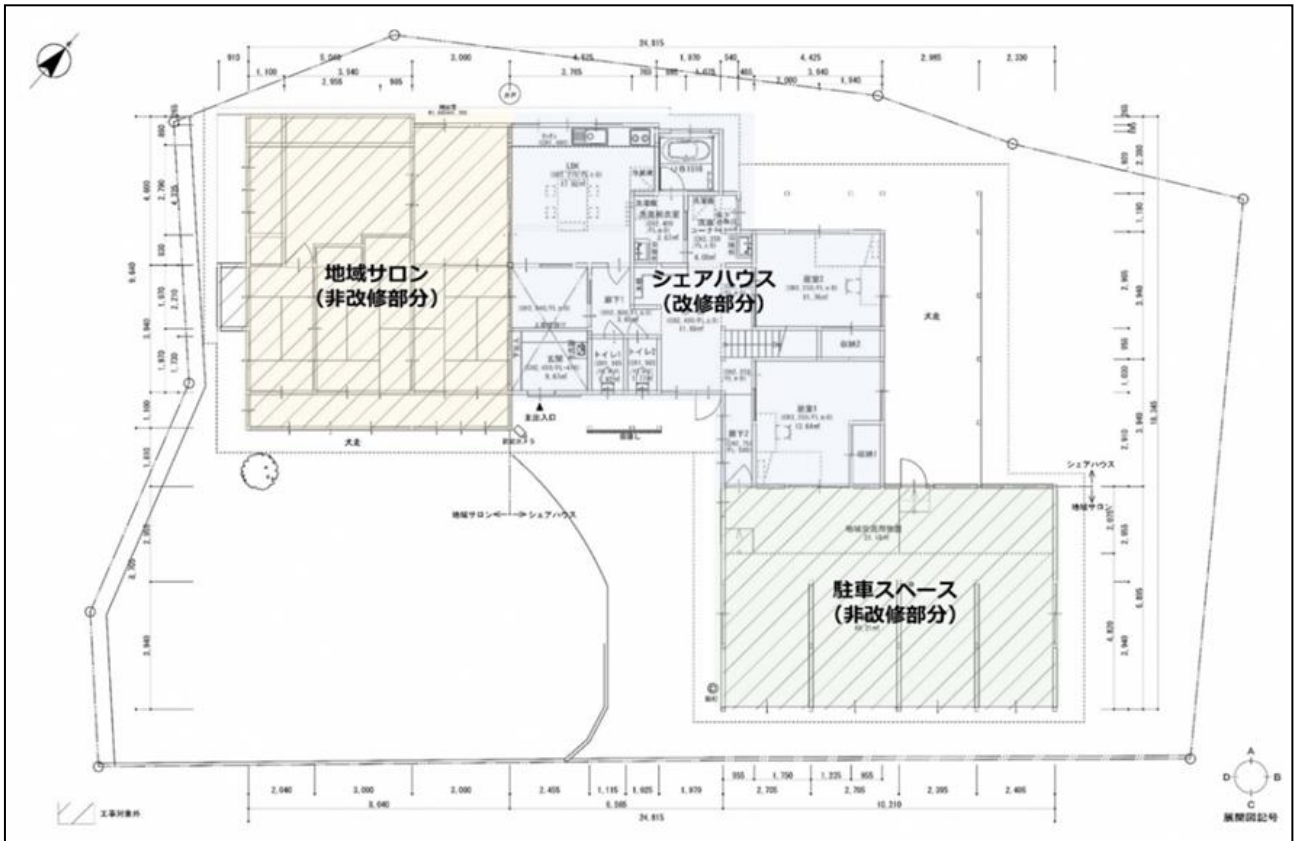


表1 資金計画

支出の部

科目	予算額	摘要
改修工事費	13,970,000	

収入の部

科目	予算額	摘要
入会金収入	100,000	
寄付金収入	2,370,000	クラウドファンディング+寄付
出雲市補助金	7,000,000	
借入金	4,500,000	
計	13,970,000	

写真7 改修工事の状況②



5) 改修ワークショップの実施

空き家を現代の居住水準を踏まえ、学生のニーズに沿ったシェアハウスに改修するには、多額の費用がかかります。一方で、入居する学生に対して低い家賃を実現するには、改修費を可能な限り抑える必要があります。このことから、改修工事の一部をワークショップ形式により実施し、工事費を抑える取組（改修ワークショップ）を実施しました。この改修ワークショップには、学生や地域住民、連携団体関係者が参加し、力を合わせ空き家の改修に取り組みました。これにより、コスト削減のみならず、空き家活用における改修過程をみんなで体感することで「地・学連携」を一層深める結果をもたらしました。

改修ワークショップを重ねる毎に、空き家だった建物が「みんなのシェアハウス」として親しみのある地域の拠点へと変化していきました。

■合板家具ワークショップ(第1回)

シェアハウスで使用する家具づくりを島根大学の木工教室で実施しました。講師は島根大学名誉教授の山下先生。作業前には山下先生による木育講義もありました。家具に使用する材料は、島根県内で木育活動に取り組まれている（一財）田部謝恩財団様より提供いただいた合板です。このプロジェクトは、様々な分野の方々に支えられながら進んでいきます。

[実施日時] 令和3年11月14日（日） 10:00～15:00

[参加者数] 20名

[作成内容] シェアハウス各居室の棚作成

写真8 ワークショップの状況①



写真9 ワークショップの状況②



■解体ワークショップ

改修工事が始まったばかりの現場で解体ワークショップを行いました。現地での改修ワークショップ第1弾です。バールを振りまわす学生の姿が印象的でした。

[実施日時] 令和3年11月14日(日) 16:00～17:00

[参加者数] 10名

[作業内容] 玄関の解体

写真10 ワークショップの状況③



写真11 ワークショップの状況④



■内装ワークショップ

シェアハウスの内壁(合板)を張るための下地張り作業を行いました。また、仕上げ合板の研磨作業と断熱材の敷き込み作業も同時に実施しました。

[実施日時] 令和3年12月29日(水) 10:00～15:00

[参加者数] 20名

[作業内容] 内壁の下地張り、断熱材の敷き込み等

写真12 ワークショップの状況⑤



写真13 ワークショップの状況⑥



■塗装ワークショップ

壁に張られた合板の塗装作業を実施しました。合板は床、壁、天井、建具等様々な箇所に使用していますが、ワークショップでは壁の塗装を中心に行いました。

[実施日時] 令和4年1月29日(水) 10:00～15:00

[参加者数] 10名

[作業内容] 内壁の仕上げ塗装

写真 14 ワークショップの状況⑦



写真 15 ワークショップの状況⑧



■タイル張りワークショップ

地元企業よりタイルを提供いただき、キッチンカウンターのタイル張りを実施しました。部分的にタイルを砕いた欠片を用いて、デザインに取り入れる等の工夫をしています。

[実施日時] 令和4年1月29日(土) 10:00~15:00

[参加者数] 10名

[作業内容] キッチンカウンター周りのタイル張り

写真 16 ワークショップの状況⑨



写真 17 ワークショップの状況⑩



■左官ワークショップ

左官職人さんの指導のもと、各居室の漆喰塗り作業を実施しました。居室ごとに異なる壁の表情となり、魅力のある仕上がりとなりました。漆喰の色は県大の学生が決めてくれました。

[実施日時] 令和4年2月5日(土) 10:00~15:00

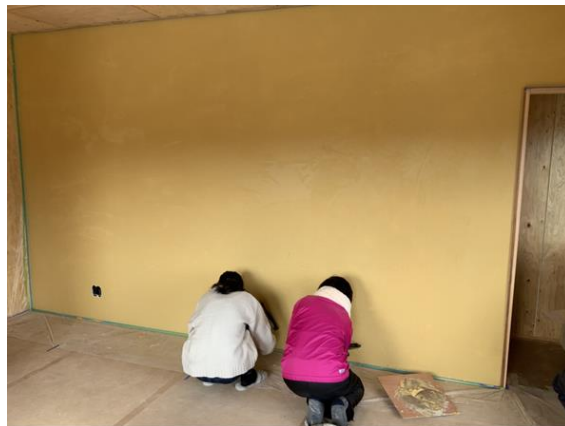
[参加者数] 20名

[作業内容] 内壁の漆喰塗り

写真 18 ワークショップの状況⑪



写真 19 ワークショップの状況⑫



■合板家具ワークショップ(第2回)

2回目の合板家具ワークショップではシェアハウスの共用部分の家具づくりを実施しました。要所に家具を作成した方々の工夫が見られます。

[実施日時] 令和4年2月12日(土) 10:00~15:00

[参加者数] 15名

[作業内容] 家具類等(下足入れ、棚、掲示板、表札)の製作

写真 20 ワークショップの状況⑬



写真 21 ワークショップの状況⑭



6)合板で作る家具デザインコンペの実施

空き家の非改修部分である「地域交流サロン」では地域住民と学生の連携により今後、サロンや健康教室などのイベントが開催される予定です。地域交流サロンで使用する家具は、今後の地・学連携のなかで作成していく予定としています。本プロジェクトでは今後作成する家具デザインを「コンペ形式」により広く募集しました。

[審査結果]

応募総数：39作品

最優秀賞：1作品

優秀賞：3作品

特別賞：5作品

写真 22 コンペ審査会の状況



図 3 コンペ最優秀賞



7) 地・学連携座談会

このプロジェクトは、かつての農村地域で地域住民の暮らしを支えた「結」を空き家の利活用を通じ、新たに再生することを目指しています。この地・学連携座談会は、今後シェアハウスを利用していく学生と地域住民との交流を深めるきっかけ作りとして行うものです。学生がこの座談会をおし、鳶巣地区の皆様とふれあう中で、地域交流の素晴らしさを実感し、シェアハウスに入居する予定ではない学生を含め、地域の一員であるとの思いを強く抱くことができる良い機会となりました。

[実施日時] 令和3年12月12日(土) 15:30～16:30

[会場] 鳶巣コミュニティセンター

[参加者数] 50名(参加者:学生、地元住民、その他関係者等)

[概要] しいたけピザを手作りし、食を通じた交流会を実施

写真 23 座談会の状況①



写真 24 座談会の状況②



②取組成果の発表・公表

1) 事業報告会の開催

■事業報告会

令和3年度の活動内容を地域住民等へ広く周知するため事業報告会を開催しました。令和2年度から続く本プロジェクトの総括として実施し、プロジェクトに参加した学生からの地域の皆様へのメッセージも発信しました。報告会の前には、合板でつくる家具デザインコンペの表彰式を行い、受賞者に賞状と賞金を手渡しました。

[実施日時]：令和4年2月23日（水） 13：30～15：15

[来訪者数]：50名

写真 25 コンペ表彰式の状況



写真 26 事業報告会の状況



■シェアハウス完成内覧会

完成した空き家活用シェアハウスを様々な方々に見ていただくための内覧会を実施しました。この内覧会には、空き家の利活用への関心の高まりから、様々な方々が訪れられ、この鳶巣地区での取組み内容を含め、多方面に情報発信できる機会となりました。

改修ワークショップを一緒に行った地域住民の方も多く来場され「みんなで作ったシェアハウス」として、親しみのある地域拠点になっています。

[実施日時] 令和4年2月23日（水） 10：00～12：00

[来訪者数] 70名

写真 27 完成内覧会の状況①



写真 28 完成内覧会の状況②



■ホームページの作成・公表

このプロジェクトは、地域主体の空き家対策「しまね版空き家利活用策」として県内各地に広げていくことを目的の一つとしており、ホームページによる情報発信を行っています。新たな空き家活用モデルとして、地・学連携の姿を公開し、空き家活用について興味のある方々の目に触れることができるよう積極的な発信を心掛けています。

■ 鳶巣地区文化展への出展

鳶巣コミュニティセンターで実施された地区の文化展に取組のパネルを出展し、地域住民にプロジェクトの状況を報告しました。

図4 ホームページ

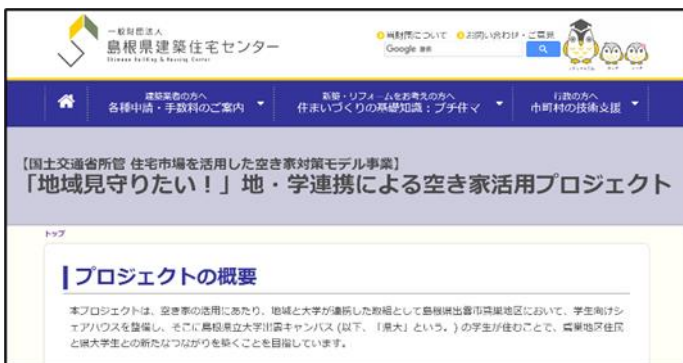


写真 29 鳶巣地区文化展の状況



■ プロジェクト通信の発行

地域住民にプロジェクトの状況を報告するために「プロジェクト通信」を作成し、配布しました。

図5 プロジェクト通信①



図6 プロジェクト通信②



図7 プロジェクト通信③



(3) 成果

空き家活用までに必要となる取組に関するノウハウの蓄積

今後の空き家利活用のためのケーススタディとして「まずは1軒!」、計画から改修・管理・運営を行うまでについて検討を重ね、実際に地域主体の空き家対策として実践しました。その空き家活用の各過程を、連携団体が協力し、共に活動することで各団体に空き家活用のノウハウが蓄積され、次の空き家の利活用に活かしていきます。

シェアハウスの管理運営等を担う（一社）まちづくり鳶巣の設立

今回整備したシェアハウスの管理、運営を担う団体「一般社団法人 まちづくり鳶巣」が地域住民有志により設立されました。本法人は今後空き家対策だけでなく、様々な地域活性化の取組を行う予定としています。

シェアハウス「とびっこハウス」の完成

この2年間の取組により、空き家を改修したシェアハウス「とびっこハウス」が完成しました。これにより、鷹巣地区の空き家が1件減り、民間のアパートよりも家賃の安い住まいが4部屋確保できました。シェアハウスの名称「とびっこハウス」は県大の学生が提案してくれたものを採用しました。

シェアハウスの完成を前に、入居募集を行ったところ、すぐに申し込みがあり令和4年4月からは学生4名が居住することが決まりました。

写真 30 完成写真①



写真 31 完成写真②



地域と大学、官民等の幅広い連携関係の構築

今回の取組を通じて、これまで関わりの少なかった各連携団体間で新たなつながりができました。建築を学ぶ学生と看護を学ぶ学生、県や市といった行政機関と、空き家対策に取り組む民間組織など、今回のプロジェクトを通してできたつながりは、本プロジェクト終了後も継続されます。

活動報告書の作成

本プロジェクトで実施した地域主体の空き家利活用の取組を報告書にまとめました。県内各市町村や、空き家活用のきっかけを模索している人に対し広く周知し、県内各地で、かつて農村に存在していた住民同士のつながり「結」が再生され、地域住民が主体となる空き家活用が継続的に実施されることを期待しています。今後この報告書を使い、県内各地へ「しまね版空き家利活用策」を広めていくこととしています。

図 8 活動報告書

国土交通省 住宅市場を活用した空き家対策モデル事業

「地域見守りたい！」

地・学連携による空き家活用プロジェクト

活動報告書

令和4年2月

「地域見守りたい！」地・学連携による空き家活用プロジェクト事務局

目次

1. 取組のきっかけと目的 …… 3

1-1 背景と経緯

1-2 プロジェクトの目的等(中略)

1-3 ミゾムに活用する空き家(大畠)

1-4 取組の経緯

2. 具体的な取組 …… 7

2-1 協賛団体の取組

2-2 コミュニティカンパニーの設立

2-3 改修ワークショップの実施

2-4 自給でつくる家具デザインコンクールの実施

2-5 地・学連携協議会の実施

2-6 活動報告の公表

2-7 完成内覧会の実施

2-8 完成報告会の実施

3. 「とびっこハウス」の取組 …… 25

3-1 取組の経緯

3-2 資金計画

3-3 改修工事

3-4 入居者募集、入居後の様子

4. 参加者の想い …… 34

5. 総括 …… 36

地・学連携による空き家活用プロジェクト連携団体

- ・鷹巣地区自治協会 ・川北町内会 ・鷹巣地区社会福祉協議会
- ・(一社)しまね県民会連合会 ・鷹巣地区大学同窓会・キャンパス
- ・(一社)住民気持地産物産振興会 大畠 ・鳥取大学総合理工学専攻建築デザイン学科
- ・出雲市(建築自宅建設事業推進課) ・倉橋町(土木建築部企画課)
- ・(一社)地産物産振興センター(事務局)

2-2 コミュニティカンパニー(空き家活用に関する地域連携組織)の設立

地域からの取組を促す。このプロジェクトで取り組む、県大生によるシェアハウスの改修工事、シェアハウスの運営・管理及び今後の空き家利活用を推進することを目的に、鷹巣地区住民が主体となった法人(一般社団法人とびっこハウス)が設立された。発起人から、(一社)しまね県民会連合会(事務局)の鳥取県立大学出雲キャンパス学生と地域住民が中心となる。

(1) 法人の設立

令和3年8月6日(日)「設立総会」
 総務課(倉橋町)が中心で、本プロジェクト連携団体に参加。

(2) 令和3年度の事業計画等

① 空き家改修事業

- ・鷹巣地区のシェアハウスの改修
- ・予定稼働期間：令和3年10月から令和4年2月まで
- ・改修費総額：1,400万円

② クラウドファンディングの取組

空き家活用に関する取組の取組の取組としてクラウドファンディングに挑戦しました。

・実施期間

・目標額：300万円(最終目標は200万円)

・期間：11月29日から1月26日(23日)

・募集：クラウドファンディング(手数料12%)

・方式：All or Nothing型

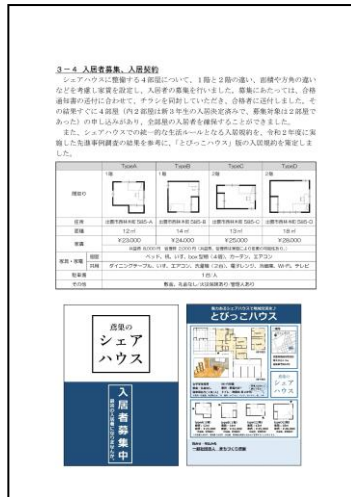
・募集品：鷹巣地区「とびっこ」グッズ、計4種(中略)

取組品

(鷹巣地区「とびっこ」によるグッズ)

取組品

(鷹巣地区の「とびっこ」)



3. 評価と課題

①「島根県版空き家利活用策」の確立

1) 検討会の実施

検討会を計3回、準備会を計6回実施することができました。地域住民や学生の参加により、より充実した空き家対策に係る検討会議を実施できたと考えています。

2) 空き家の管理・運営を担う団体の設立

シェアハウスの管理運営や、今後の継続した空き家利活用を進める上で、この団体の立上は必要不可欠だったと考えています。今後の空き家の利活用と、それによる地域住民と大学（学生）とのつながりの創生を担う組織として期待しています。

3) クラウドファンディング等による資金確保

改修資金の確保及び取組の情報発信手段として有効だったと考えています。目標金額を達成し、支援者の中には県外の方もおられクラウドファンディングとしての目的を達成できたと考えています。

4) 改修工事の実践

空き家の状態や改修の程度により、必要となる費用を概ね認識する良い機会となりました。また、具体的な改修費用を算出し、運営（返済）可能な資金計画を立て、資金計画に沿った改修内容に見直し、家賃収入による費用回収を検討することで、最も重要となる資金的な面で今後活かすことのできる取組となりました。

5) 改修ワークショップの実施

本取組は空き家の利活用を行う上で、どのような作業が必要となるのかプロジェクト関係者が経験するよい機会となりました。地域住民と学生が参加することで、みんなにとって愛着のあるシェアハウスとして地域の皆様に愛され続けることを期待しています。

6) 合板でつくる家具デザインコンペの実施

当初予定していた取組がコロナ禍により実施困難となったことから、新規の取組としてコンペを実施しました。若々しい提案が多く、とても楽しい審査となりました。今後、受賞作品を基に家具の制作をすることとしており、継続的な地・学連携の可能性を残すことができました。

7) 地・学連携座談会

コロナ禍の影響により、当初予定していた計2回の実施はかないませんでした。地域の皆様の協力により、座談会（ピザパーティ）を開催することができました。座談会では、学生が入居するR4年4月以降の地・学連携の在り方など、ワクワクする鳶巣の未来を語り合う貴重な機会となりました。

②取組成果の発表・公表

1) 事業報告会の開催

シェアハウスへの整備が完了したことを地域住民だけでなく、空き家の利活用に興味を持たれた方へ広く周知するため内覧会を実施しました。想像した以上の来客がありシェアハウスの完成を多くの方が楽しみにして待っていてくださったことを感じました。また、2カ年にわたるプロジェクトの総括として実施した報告会は、地域住民だけでなく県内各地からの参加者があり、目的としている「しまね版の空き家利活用策」を各地へ展開するにあたり、有効であったと考えています。

4. 今後の展開

本プロジェクトは、地域のつながりである「結」を新たに再生し、その力で行う空き家の利活用を「しまね版空き家利活用策」として確立し、県内各地に展開していくことを目的のひとつとしています。令和2年度から始めた本プロジェクトは、本年度に空き家活用シェアハウス「とびっこハウス」としての整備が完了しました。令和4年度からはシェアハウスとして、実際の運用が開始されます。「しまね版空き家利活用策」1件目となる本プロジェクトは成功したものと考えていますが、重要なのはこれから長期間にわたる管理・運営段階であり、また、「とびっこハウス」を生かした地域活性化の取組が継続されることです。

本プロジェクトの対象地である出雲市鳶巣地区では、地域住民の有志により「一般社団法人まちづくり鳶巣」が設立されました。今後は地域住民と大学（学生）との新たなつながりがさらに発展することが期待されます。空き家という負のイメージがつきまとう課題に対し、地域住民と若者（学生）が一緒に取組むことによって、空き家だけでない様々な課題解決の糸口となり、私たちがこの2年間感じてきた、『ワクワク感』を常に感じることもできるかもしれません。

また、本プロジェクトの一連の取組をきっかけに、県内各地で空き家活用の取組が始まり、全体として「空き家活用ムーブメント」が盛り上がりを見せることがあれば、本プロジェクトの意義はより大きくなることでしょう。そのためにも、本プロジェクトで確立した「しまね版空き家利活用策」を、連携団体間で構築された幅広いつながりを通じて広く周知し、より多くの空き家利活用と、地域活性化が図られるよう広報活動を継続していきたいと考えています。

地域主体で進める空き家活用の取組を通じて、地域活性化につなげる本取組が、今後、県内各地に広がり、1件でも多くの空き家となっている建物に、新たな命が吹き込まれることを期待しています。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	2013年3月		
代表者名	理事長 大野 隆		
連絡先担当者名	調整幹 田中 亮輔		
連絡先	住所	〒690-0842	島根県松江市東本町二丁目 60 番地すままちプラザ 2 階
	電話	0852-26-4577	
ホームページ	https://www.shimane-bhc.or.jp/		